

1 研究テーマ

〈小中連携研究テーマ〉

「対話」を通して自己の生き方について考えを深め、「在りたい未来」を創る子どもの育成

〈西紀南小学校 研究主題〉

「主体的に 自己を見つめ、よりよく生きようとする 児童の育成をめざして」

～道徳的価値の理解を深める発問・問い返しの工夫～

2 テーマ設定の理由

本校の児童は、縦割り班活動や児童会活動など異学年交流を通じてお互いを理解し、学年が異なっても協力して仲良く活動できる児童が多い。また言われたことに対してまじめに取り組み、規律正しく行動することができる。道徳の授業の中では、友達と仲良くすることや規律を守ることの価値について理解し、自分なりに意見や考えを発表する姿がみられる。一方で、自分の考えがもてない児童や、学校生活や学級集団の中でトラブル（対立）が起こった時に、友達とどのようにかわり、どう行動すればよりよく対処できるかを考えることができない児童もいるのが現状である。一人一人がそれぞれの道徳的価値をもち、その価値観は多様である。そういった状況を踏まえたうえで、授業のなかで児童一人一人の多様な考えに触れながら授業のねらいに迫るためには、個々の心情のみを問うような意見交流ではなく、自分の問題として道徳的価値について考えさせ、思考を深めさせる授業展開が必要である。

そこで今年度は、児童が中心発問に対して考えるであろう発言をあらかじめ予測し、補助発問や追発問、問い返しによってさらに深く考えるための授業づくりを追究していくこととした。児童がそれぞれもつ道徳的価値について、道徳の授業を通してさらに価値理解を深めるために、教師が補助発問や追発問、問い返しを仕組んでいくことが大切であると考えた。そうすることで児童が自己の道徳的価値について問い返し、考えを深めることができるであろうと考え、「主体的に 自己を見つめ、よりよく生きようとする 児童の育成を目指して ～道徳的価値の理解を深める発問・問い返しの工夫～」を研究テーマとした。

3 研究仮説

中心発問で出た発言について、補助発問や追発問、問い返しを工夫することによってさらに深く考えさせることができれば、道徳的価値の理解が深まるであろう。

4 めざす授業像

- ・主体的に考え、自己をみつめ、自己の生き方について考えを深めることができる授業
- ・（教材、自分、友達との）対話を通して、新しい気づきに出会うことができる授業
- ・自分の考えが揺さぶられることで、考えたくなる、考えざるを得ない授業

本校が目指す道徳科の授業とは、児童がもつ既存の考えを揺るがすような発問や問い返しを行うことで、改めて自分自身の道徳的価値観について考えたくなる、考えざるを得なくなるような授業である。意図的な発問により自己はもちろん教材や他者との対話を通して、多面的多角的に考えることで新しい道徳的価値に気付いたり、少しでも既存の考えが深まったりすることをめざしていく。

5 めざす子どもたちの学びの姿



道徳的価値が深まっている姿

- | | |
|---------------------|----------------------|
| ①自分の考えが授業を通して深まっている | ②違う考え方をしている・新しい発見がある |
| ③自分事としてとらえて考えている | ④これからの生活につなげようとしている |

6 取組の具体的な手立て

→教材分析シートを活用した授業分析

授業者が教材分析シートを作成し、本時で児童と一緒に考えたいテーマを明確にし、中心発問や児童の反応、それに対する問い返しを明記する。授業を通して考えたい道徳的価値に迫るための発問を考え、児童がどういった発言をするかを予測することで問い返しや補助発問を準備する。そのため主人公が変容する、または変容する兆しのみられる教材に特化し、内容項目や教材を絞って研究を進めていくこととした。

→中心発問に対する自分の考えのみ、ワークシートに記入

児童が授業中に使用するワークシートの型は校内で統一し、中心発問に対する自分の考えを記入することのみで中心発問を深める時間の確保を行う。本校の児童の実態として、自分の考えをまとめるためにも記述する方が発表しやすい姿が見られた。そのため、深く考えさせたい中心発問においてのみ、ワークシートに自分の考えを記述することとした。

→振り返りカードの統一

授業の最後に毎回振り返りを行う。振り返りの観点は5観点（後述）とし、数値で記録することと、記述式で本時に考えたことを観点にそって書くこととした。

→ワークショップ型事後研修

授業参観の視点を毎回「教師の発問とそれによる児童の思考の深まり」とし、参加者は授業参観シートに発問と児童の発言を記録する。授業の見方が定まり、事後研修ではワークショップ型研修で発問による児童の思考の深まりの効果についてのみ吟味することとした。

取組

- ・教材分析シートを活用した授業分析
→ 中心発問に対する児童の反応と問い返しを用意する
- ・中心発問に絞ったワークシート
→ 児童の考え、振り返りの厳選
- ・発問に絞った事後研修

期待する効果

- ・問い返しが多様になり、洗練される

問い返しによって、児童の思考が促され、

道徳的価値が深まる

見取り

- ① 毎時間ごとの振り返り(5 観点・記述内容)
- ② 児童に対する道徳アンケート(年2回6月、11月実施)
- ③ 道徳における児童の学びの記録振り返りシート(年2回10月、3月実施)
- ④ 研究仮説の検証
「道徳的価値についての児童理解は、中心発問に対する児童の反応へのどんな補助発問の工夫により、どのように変化したか」
研究授業において、
○ 問い返しや補助発問の工夫がどのようになされているか
○ 児童の価値理解の変化がどのようになったかの傾向を読み取る。

子どもの姿

- ・考えが深まっている
- ・違う考え方をしている、新しい発見をしている
- ・自分事としてとらえている
- ・これからの生活につなげようとしている

7 研究全体図

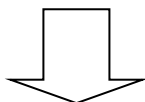
学校教育目標

自ら考え、進んで学び、未来を切り拓く児童の育成

～もっとチャレンジするみなみっ子～

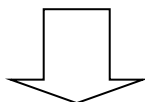
児童の実態

学びを自覚的に捉えたり、学習したことに基づいて自分の思いや考えを表現したりすることに課題がある。また、他者の意見をよく聞いて自分の考えと比べて考えることで最初に自分が考えていたことを再考する力をつける必要がある。



めざす子ども像

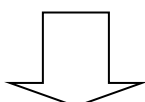
主体的に考え、自分の思いや考えを適切に表現し、他者と互いに考えや意見を出し合うことで、新しい気づきに出合うことができる児童



研究テーマ

「主体的に 自己を見つめ、よりよく生きようとする 児童の育成をめざして」

～道徳的価値の理解を深める発問・問い返しの工夫～



【研究仮説】

中心発問で出た発言について、補助発問や追発問、問い返しを工夫することによってさらに深く考えさせることができれば、道徳的価値の理解が深まるであろう。